

ゴルゴタ

知っておきたいキリスト教のことば (75)

「ゴルゴタ」はイエス様が十字架につけられた場所であり、「されこうべの場所」と呼ばれています。されこうべとは頭蓋骨のことで、ラテン語でされこうべを意味する Calvariae から派生した「カルバリ」も同じ場所を指します。

英語でも「カルヴァリー」と表記されることが多いため、教会の名前として用いられたり、聖歌の歌詞「カルバリの木にかかり」（日本聖公会聖歌集 251 番）として使われることもあります。



ゴルゴタがどこにあったかについては、諸説あります。

まずエルサレムの旧市街にある、現在の聖墳墓教会のある場所とする説です。ここは 326 年、後にキリスト教を公認するローマ皇帝コンスタンティヌスの母ヘレナが、十字架と釘という聖遺物を発見した場所です。そしてこの場所こそイエス様が埋葬された場所であり、また十字架につけられたゴルゴタであると考えられ、聖墳墓教会が建てられました。

また、エルサレムの北にある城壁の外にある「園の墓」ではないかという説もあります。ダマスコ門の北東 230m ほどにある高さ 20m の丘がその場所です。そこにある小高い丘には 3 つの洞窟があり、まるで頭蓋骨のように見えます。この場所はエルサレム城外にあり、ヘブライ人への手紙 13 章 12 節「イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、門の外で苦難に遭われた」という記述にも合致します。

聖公会を含むプロテスタントの一部の教派では、後述した城壁外にある「園の墓」説を支持しているようです。しかし場所がどこであろうとも、イエス様の苦しみを思い、十字架への道を歩むことはとても大切なことです。その先にある場所、それが「ゴルゴタ」なのです。

次回は「最後の審判」です。お楽しみに。